

重点施策別評価表

1-1 魅力ある図書館づくりの推進

全年齢層へのサービスの充実を目指し、利用促進につながる事業を実施する

項目	単位	27年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
魅力ある図書館づくりの推進							3.9	
開館30周年記念事業の開催	開催	開催	開催	100	良い	廃止	5	5
司書職員数	人	10	9	90	良い	継続、維持	4	4
録音資料作成数	点	3	3	100	良い	継続、維持	5	5
ボランティア組織の設立	設立	設立	未設立	0	悪い	拡大、充実	2	2
おはなし会回数	回	350	357	102	良い	継続、維持	5	5
おたのしみ会延べ回数	回	6	5	83	良い	継続、維持	4	4
ボランティア研修会	回	1	1	100	良い	拡大、充実	5	5
人形劇	人	120	80	67	良い	継続、維持	3	3
あれこれブックガイドの配布	箇所	16	16	100	良い	継続、維持	5	5
読書ラリーの実施	終了者数	100	39	39	やや悪い	拡大、充実	2	2
文学講演会(短歌)	人	60	29	48	やや悪い	見直し	2	2
石川信雄講座(3回)	延べ人数	60	56	93	良い	見直し	4	4
夜間開館入館者数	人/日	220	213	209	良い	継続、維持	4	4
閲覧席利用席数	席/日	20	17	85	良い	継続、維持	4	4
入館者数	人	720,000	694,482	96	良い	拡大、充実	4	4
ウィークエンドシネマ	回	24	27	113	良い	継続、維持	5	5
図書館評価の実施と公表	実施	実施	自己評価		良い	継続、維持	4	4

★自己評価

○評価の理由

- ・30周年記念事業は、実行委員会を立ち上げてから、記念事業まで日数が少なく、PR不足など心配な面もあったが、実行委員会委員、各施設の担当者がお互い協力し合い、当日は大勢の方に来場していただけたので高い評価とした。
- ・ボランティア組織の設立まではいかなかったが、設立に向けて既存のボランティア団体と調整等を行うことが出来たので高い評価とした。
- ・概ね目標値を達成できているので4ないし3とした。
- ・あれこれブックガイドについては、配布後すぐに対象資料が貸出されるなど効果が上がっていることが実感できる。対して読書ラリーについては、低学年を中心に本は読まれているものの、感想を書いて持ってきてくれる子が非常に少なかった。
- ・文学講演会については、参加者の固定化も進んでいるため、今後はジャンルを変えたほうが良いと感じる。
- ・達成率が100超のものについては評価を基本的に5とした。
- ・目標値に概ね近い達成値が出ている項目が多く、4ないし5を中心とした評価とした。

○課題

- ・ボランティア組織については、平成28年度の早い時期に設立し、いかに軌道に乗せるかが課題である。
- ・ボランティア組織の設立については27年度中にはできなかったが、28年度の上半期には設立したい。
- ・ボランティア組織については、うまくいっている他市の図書館と、そうでない図書館があるので組織立ち上げ時には注意が必要。
- ・読書ラリーの実施については、全館挙げての事業としてとらえ浸透させていく必要がある。
- ・読書ラリーは、開催時期・期間等を良く検討し、定着させることが必要である。
- ・石川信雄講座は、成果が出たので、一区切りとするべきである。
- ・おはなし会は、回数だけではなく、1回あたりの参加者数をいかに増やすかも重要である。
- ・あれこれブックガイドは、小学校の夏休み前に配布するが、小学校ではこの時期、配布物が多く、他の配布物に埋もれないように配布時期をずらす等の検討が必要である。
- ・「読書ラリー」については、かなり達成率の悪いものとなっている。読書案内は、図書館の大きな役割のひとつであるので、今後は、さらに周知(特にカウンター等にて)し、充実したものにしていきたい。
- ・講座についてはこの数年同じようなテーマで実施しているので、変えた方が良い。

○次年度への改善点

- ・講座、講演会については、多くの市民が参加できる内容や日程で開催する。
- ・「読書ラリー」について、実施方法を検討する。(プレゼントやプリントの配布方法など)
- ・読書ラリーについて、実施時期や景品、あるいはチャレンジ内容自体、一度見直しをしてもいいのではないか。
- ・文学講演会(短歌)は、参加率が低いため、内容の見直し等が必要。

★外部評価

○評価の理由

- ・読書ラリーについては、感想を持ってきてくれる子が、昨年度はちょっと少なかったかなというところで、せっかく企画されたのに、もったいないなという気がします。次年度の改善点のところにもありますので、評価的には妥当と思われる。
- ・「ボランティア組織の設立まではいかなかったが～高い評価とした」と書いてありますが、自己評価の数字は2と低く、文章と評価が食い違っているように思われる。→平均点をとっているため、低い点数となった。
- ・「文学講演会(短歌)」とあるが、短歌だけだったため来場者が少なく自己評価が悪くなったと思われる。

○課題

- ・「あれこれブックガイドについては、～感想を書いて持ってきてくれる子が非常に少なかった」とあるが、持ってきてくれるのを待っているだけだといけない。もう少し、何か積極的に図書館側から発信するなど方法を考えるべきであろう。
- ・「おはなし会は、回数だけではなく、1回あたりの参加者数をいかに増やすかも重要である」とあり、参加者を増やすためにその内容も検討が必要と思われる。
- ・「おはなし会」についても、学校や幼稚園等への宣伝をぜひお願いしたい。
- ・「講座、講演会」については、多くの市民が参加できる内容や日程で開催する」とあるが、時流にあった、皆さんが聞きたいと思えるようなような、興味を引く内容のものを是非企画していただきたい。
- ・西武分館のウィークエンドシネマは、以前は映画の一覧があったかと思われる。一覧があれば来館者に上映の希望をとったり、有効に活用できると思われるので、検討願いたい。
- ・「読書手帳」の導入についても、予算を使わずに上手くできる方法で実施願いたい。

重点施策別評価表

1-2 図書館資料の充実

予算の適正な執行を行い、資料の刷新を図って、市民満足度を高める

項目	単位	27年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
図書館資料の充実							4.4	
市民一人当たり資料点数	点	3.8	3.78	99	良い	拡大、充実	4	4
貸出点数	点	1,000,000	963,865	96	良い	拡大、充実	4	4
子供向け資料	点	2,750	2,722	99	良い	拡大、充実	4	4
関心が高い分野の資料	点	7,000	7,118	102	良い	拡大、充実	5	5
参考図書資料	点	200	154	77	やや悪い	拡大、充実	4	4
大活字本	点	100	117	117	非常に良い	拡大、充実	5	5
NPO雑誌寄贈サポート	種	35	39	111	非常に良い	継続、維持	5	5

★自己評価

○評価の理由

- ・総合評価は4以上であり、ほぼ目標が達成されたと思われる。
- ・1人当たりの資料点数や貸出点数は目標値に若干足りなかったため4と評価した。
- ・概ね目標値を達成できているので5ないし4とした。
- ・達成率が100超のものについては評価を基本的に5とした。
- ・概ね目標値を達成しており、高め評価となった。

○課題

- ・NPO雑誌寄贈サポートは、定着している事業であるが、NPOと共同で行っているメリットが十分に発揮されていない。
- ・参考資料は禁帯資料が多く、購入した資料がどの程度利用されているのか分からない。
- ・資料購入のための予算が潤沢には確保されていない。
- ・市民からの寄贈をつのってはいれるが、本来の寄贈とはかけ離れた、図書館資料にならないような物の持ち込みが多い。
- ・大活字本の新刊は限られているので、全て漏れなく購入できるようなチェック体制が必要である。
- ・雑誌寄贈サポート事業について、サポート企業の固定化に伴い新規サポート企業の開拓が必要と思われる。
- ・参考資料について、高価な資料が多く更新や新規購入ができていないため、限られた図書購入費においては、メリハリを付けた予算配分が必要かもしれない。
- ・参考図書の達成率がやや悪いが、一般図書として購入後に参考図書にすることもあるので、一概に悪いとは言えない。
- ・資料点数の増加は、現在の図書館のキャパシティからすると難しい。貸出点数の増加を目指すのであれば、関心の高い分野の資料を積極的に購入し、利用のない資料の除籍ももっと行うべきだと感じる。
- ・勉強目的で図書館を利用する方も多いため、参考資料の数・質が低下することは、長い目で見た場合問題が大きいと考える。

○次年度への改善点

- ・NPO雑誌寄贈サポート参加企業の早期発掘と手続を完了させること。
- ・雑誌寄贈参加企業のPR方法を多方面から見直す。(例えば、工業会の協力を仰ぐ)
- ・参考図書については、どの館が少ないのか検討し、充実を図る必要がある。

★外部評価

○評価の理由

- ・参考図書資料の項目以外は概ね目標値にたっているため、高い評価となっており良いと思われる。

○課題

- ・寄贈本を、人気のある本などに限定した方が良いのではないですか。車で回収に行くと、人件費やガソリン代もかかってしまう。
- ・そのようなことを避けるためにも、受け入れる本の線引きをもっとしっかりやった方が良いのではないか。

重点施策別評価表

1-3 学校等と連携した読書活動の推進

市民の読書活動支援のために学校や関係各所と連携を強化し、ボランティアを支援する

項目	単位	27年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
学校等と連携した読書活動の推進							4.1	
図書館見学	校、人	16校、1,370人	15校	94	良い	継続、維持	4	4
利用教室	校、人	16校、1,283人	16校	100	非常に良い	継続、維持	5	5
中学校社会体験チャレンジ	学校数・人	11校	10校	82	良い	継続、維持	4	4
プチー日図書館員	回、人	8回、100人	8回、90人	90	良い	継続、維持	4	4
学校図書館ボランティア研修会	回、人	2回、70人	2回、58人	83	良い	継続、維持	4	4
移動図書館車の学校定期巡回	学校数	8	8	100	良い	継続、維持	5	5
配本サービス	箇所数	35	30	86	良い	継続、維持	4	4
庁内イベント協力	箇所数	5	5	100	良い	継続、維持	5	5
ブックスタート関連事業	回	12	12	100	良い	拡大、充実	5	5
ブックスタート庁内調整会議	回	1	0	0	悪い	拡大、充実	1	1
夏休み臨時学習室(藤沢)	日、人	10日、15人	9日、10人	90	悪い	見直し	4	4
おとなのための朗読会	回・人	1回、50人	1回、58人	116	良い	継続、維持	5	5
古典朗読会	回	12	11	92	良い	継続、維持	4	4
工作教室	回、人	1回、50人	1回、29人	58	やや悪い	継続、維持	3	3

★自己評価

○評価の理由

- ・各項目、概ね目標達成或いは目標をほぼ達成しているので4から5と評価した。
- ・ブックスタート調整会議は未実施のため1と評価した。
- ・工作教室は例年になく参加者数が少なく目標からほど遠いので3と評価した。
- ・藤沢分館の夏季臨時学習室は10日の予定が9日実施できたので4と評価したが、事業の内容は見直しが必要と判断した。
- ・概ね目標値を達成できているので5ないし4とした。
- ・図書館見学は1校、都合がつかないということで実施見送りとなった。今後も学校との調整が難しくなってくるようであれば、何かしら実施方法について見直しも必要になってくるのではないかと。

○課題

- ・本格的なブックスタート事業を行うためにも定期的に庁内調整会議を行う必要がある。
- ・「ブックスタート」については、関連事業となっている。本来のブックスタート(赤ちゃんに読み聞かせしながら、ブックスタートパックの絵本を配る)とは、少し異なっているので、より近づけたものとした方がよいと思われる。
- ・ブックスタートによる子育て支援が市としての施策としての庁内での共通理解が不十分である。
- ・工作教室のPR方法の検討が必要である。
- ・プチー日図書館員について、申込方法の一本化を図る必要がある。
- ・夏休み臨時学習室(藤沢)は、部屋の安全確保のための費用を考えると合理的とはいえない。
- ・配本サービスについては箇所数は少ないものの、繰り返し利用する学校などは増えているように感じる。この状態で箇所数が増えた場合、配本予定日を増やすなどしないと、返却本の後処理が間に合わなくなる可能性があるのではないかと。
- ・外部との協力の上で行われる事業が多いが、連絡の回数などが不足しているように感じた。
- ・移動図書館による学校定期巡回は、学校側の都合上、下校前の児童が借りられない時間帯に訪問することがあった。こうしたことのないよう、連絡を密にとって調整する必要がある。

○次年度への改善点

- ・早期にブックスタート事業による子育て支援策の庁内連携体制の確立を行い、平成29年度からの実施を目指す。
- ・プチー日図書館員については、募集方法や参加者の集め方について検討すべきと思われる。
- ・学校側との連絡を密にとり、お互いの予定を調節する。

★外部評価

○評価の理由

- ・ブックスタート庁内調整会議及び夏休み臨時学習室(藤沢分館)以外はほぼ良い状況であり、妥当な評価と言える。

○課題

- ・ブックスタート事業をより早く軌道に乗せて、子どもたちのために実施していただけたらと思います。
- ・移動図書館も協力的な学校の場合、来た時間に合わせてお知らせの放送を入れられるようですが、学校側とそのように連携ができていれば、子供たちがより利用しやすくなると思います。

重点施策別評価表

2-1 図書館網の整備

移動図書館運営の見直しと代替案である分室網の整備を促進する

項目	単位	27年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
図書館網の整備							3.1	
システムネットワークダウン数	回	0	0	100	非常に良い	継続、維持	5	5
ダイア4市相互利用者数5%増	人	46,083	42,178	92	良い	継続、維持	4	4
図書館部会会議開催数	回	4	3	75	良い	継続、維持	4	4
青梅市との相互利用促進	人	100	28	28	良い	拡大、充実	2	2
黒須公民館図書室分室化	実施	実施	未実施	0	悪い	見直し	1	1
東金子公民館協議	実施	実施	未実施	0	悪い	見直し	1	1
システム更新内容の事前研究	実施	実施	実施	100	良い	継続、維持	5	5

★自己評価

○評価の理由

- ・図書館部会会議については、開催数は目標に達しなかったが、中身の濃い情報交換ができ4市図書館の連携が深められたので高い評価とした。
- ・青梅市との相互利用であるが、青梅市民の入間市立図書館利用は伸び悩んでいるが、入間市民の青梅市図書館利用は非常に多いため、この評価とした。
- ・分室整備が、公共施設マネジメントにおける施設再整備計画の中で優先順位付けが未確定のため、中断せざるを得ない状況で進展が何もなかったので1と評価した。
- ・青梅市との相互利用が、目標に対して思いのほか進まなかったので2と評価した。
- ・図書館システムは、特段のトラブルもなく、一定の評価と実績をあげたので5と評価した。

○課題

- ・青梅市民の新規登録者を増やすため効率的なPR方法の検討が必要である。
- ・施設再整備計画の予定通りの進捗。
- ・BM運行の期限時期の決定。
- ・システム更新時期の決定。
- ・「青梅市との相互利用」について、さらなる周知をはかり、利用を拡大する必要がある。
- ・青梅市との相互利用については、人数は少ないものの利用している人は頻繁に利用しているように感じるので、一定のニーズには応えられているのかと感じる。
- ・入間市民の利用については、現在の利用条件では地理的な要因もあり、大幅な利用者増加は難しいのではないかと感じる。
- ・青梅市は、市の中心地である豊岡地区や藤沢地区との距離が空いているため、利用促進は難しいだろうが、認知度そのものが低いことが気にかかる。
- ・しかしながら、利用頻度の高い青梅市民の方もいるため、継続していく価値はあるだろう。
- ・図書室分室化に関する項目は、どちらも根本的な見直しが必須だろう。

○次年度への改善点

- ・現状での最適なシステム決定のため多角的な検討を早期に行う。
- ・分館網の整備方法を施設再整備計画の中でどのように行うかを担当課と連携し、早期に協議する。
- ・青梅市民への今まで以上のPRをすすめる。

★外部評価

○評価の理由

- ・黒須公民館、東金子公民館の図書室分室化の協議はなかなか進んでいないようだが、他の項目については概ね高い評価で良いと思われるが、青梅市との相互利用についても努力願いたい。

○課題

- ・青梅市の市民の方の利用が少ないということだが、数字的にはどうなのか。分析が必要であり、お互いに利用が増えるよう望む。
- ・黒須と東金子の分室化というのは、まだ見通しがたたない状況のようであるが、今後の早期進展を望むところである。

重点施策別評価表

2-2 図書館施設の計画的な整備

設備や内装等の計画的な改修等を行い、快適な読書環境を確保する

項目	単位	27年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
図書館施設の計画的な整備							5	
本館書架購入	数	1	1	100	良い	継続、維持	5	5
カウンター用椅子	脚	6	6	100	良い	継続、維持	5	5
書架用棚板の購入	枚	20	20	100	良い	継続、維持	5	5

★自己評価

○評価の理由

- ・概ね計画通り行われ、目標を達成したので5と評価した。
- ・いずれも目標値を達成しており、非常に良い。
- ・今年度分については、ほぼ計画どおりに整備することができた。

○課題

- ・本館の書架は、開館から30年以上たっているため全体的に棚板、背板の湾曲、金具の緩み等が発生している。
- ・施設の設備・備品の計画的な更新ができていない。
- ・利用者の安全確保を図るためにも、老朽化に伴い破損した書架の継続的な入れ替えが必要である。
- ・本館の書架の中には棚板がしっかり固定されていないものがまだまだ数多くあるため、引き続き新規購入をしていかないといけない。

○次年度への改善点

- ・本館の書架は、システム入れ替え等のタイミングで、将来的に総入れ替えをするのが望ましいと考える。
- ・実施計画前に各施設、設備の現状把握を行い、必要な更新を実施計画に計上できるようにする。
- ・落書き(彫ってあるもの等)されてしまった机や、館内のソファ等、修繕・購入が必要と思われる設備がある。

★外部評価

○評価の理由

- ・この項目については、概ね目標が達成されており、高い評価で良いと思われる。

○課題

- ・各施設については老朽化が進みつつあるため、計画的な整備、改修が必要である。

重点施策別評価表

3-1 ホームページの活用

地域情報拠点施設としての役割を果たし、施設の意義を高める

項目	単位	27年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
ホームページの充実							4	
年間アクセス数	回	1,152,075	1,198,317	104	非常に良い	拡大、充実	5	5
ホームページメンテナンス	回	12	6	50	やや悪い	継続、維持	3	3
年間メール通知登録	人	100	91	91	良い	拡大、充実	4	4

★自己評価

○評価の理由

- ・図書館ホームページは、一定の評価を得たと判断できるアクセス数に達したので5と評価した。
- ・ホームページメンテナンスは、保守の範囲での実施はされたが、図書館自身でのメンテナンスは不十分だったので低く評価した。
- ・アクセス数が多く、図書館そのものに対する関心の高まりが感じられる。

○課題

- ・ホームページメンテナンスは、現在ベンダーSEが直接本館に来館して保守を行っているため、メンテナンス回数が少なくなっている。
- ・ホームページ担当職員が専任ではないこと。
- ・メール通知によるメリットが利用者に浸透していないこと。
- ・「メール通知登録」者が少ない。
- ・ホームページの利用が増えてきているにも関わらず、ホームページの情報更新頻度が少なく感じる。BM巡回の地図も、記載されていないステーションがあるのでできれば更新したい。
- ・メールアドレスをお持ちでない、使いたくない方へのサービスも拡充する必要がある。

○次年度への改善点

- ・リモート保守による、ホームページメンテナンスが必要である。
- ・ホームページ専任担当者ができるまで、各自がさらにホームページの確認や記事の入替などを積極的に行う体制づくりをすすめる。
- ・メールでの案内内容を充実させ、さらなる利用を促進したい。
- ・複数の利用者で、共通のアドレスを登録していただけることをしっかりとお伝えする。

★外部評価

○評価の理由

- ・「ホームページメンテナンス」以外の項目については、概ね目標値に達しつつあり高評価で良い。

○課題

- ・ホームページの専任の職員がいれば、頻繁に更新がされるようになるのではないか。

重点施策別評価表

3-2 広報紙等の活用

広報紙等により、地域情報や行政情報、図書館情報を早く、正確に提供することに努める

項目	単位	27年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
広報紙等の活用							5	
毎月1日号に図書館記事掲載	回	12	12	100	良い	継続、維持	5	5
図書館関連の特集記事掲載	回	1	2	200	非常に良い	継続、維持	5	5
図書館だよりの発行	回	4	4	100	良い	継続、維持	5	5

★自己評価

○評価の理由

- ・図書館だよりは、付録キャンペーンの応募も多く、定期的な読者がいるためこの評価とした。
- ・PRの実績としては、各項目とも目標に達しているので5と評価した。
- ・イベントの告知などでも、広報は現在最も中心的な告知手段だと感じる。
- ・また図書館だよりもカウンターで見ている限り多くの利用者に手に取ってもらえている。
- ・いずれも目標値を達成しており、非常に良い。
- ・図書館だよりはお求めになる方も多く、今後も継続していくべきものだろう。

○課題

- ・図書館から市民への広報活動がどのくらい浸透しているのかがはっきり把握できていない。
- ・担当課との調整不足などから記事が十分なものになっていないことがある。
- ・「図書館だより」については、本の紹介記事が好評であるので、今後とも、充実した内容に努めたい。

○次年度への改善点

- ・特集記事掲載にあたっては、担当課との調整も含め記事作成に十分な時間をかけて納得できる記事掲載に努める。
- ・ページ内の情報量が増え、文字の縮小化が進んでいる。
- ・読む意欲を損なう他、小さなフォントでは読めない方もいるため、簡潔な内容にとどめることも視野にいれなければならない。

★外部評価

○評価の理由

- ・すべての項目で高評価となっており、この状態で進めていただきたい。

○課題

- ・特になし。

重点施策別評価表

3-3 各種メディアの活用

広報紙等により地域情報や図書館情報を早く、正確に提供する

項目	単位	27年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
各種メディアの活用							5	
FM入間本のある暮らし出演	回	51	52	102	良い	継続、維持	5	5
入間CATVへの出演	回	5	7	140	良い	継続、維持	5	5

★自己評価

○評価の理由

・メディアの活用は、それぞれ目標に達し、十分な活用がされたので5と評価した。

○課題

- ・FM茶笛で紹介した資料が、すぐに貸し出しに結び付かないため、出演効果が実感しづらい。
- ・FMいるまの集録が自己都合にならないことがあり、事前の準備に苦労することがある。
- ・それぞれのメディア番組に図書館職員が出演し、イベントやおすすめ本の紹介を行っていることを知っている市民が少ない。
- ・取組は良いと思うが、効果が出ているか、市民に聞いてもらえているか分からない。図書館でももう少しPRすべきではないか。
- ・FMチャッピーは、出演によるレスポンスが特に感じられない。
- ・何もせずとも借りられる新刊本を中心とした紹介ではなく、書庫内の本に注目を集めるようなことも必要だろう。

○次年度への改善点

- ・FMいるまの番組出演を広く市民にPRする。
- ・事業実施時には積極的にメディアの取材を受けるように連携協力する。
- ・出演による効果を確認できるような方法を考える。

★外部評価

○評価の理由

- ・すべての項目で高評価となっており、この状態で進めていただきたい。

○課題

- ・FM茶笛やケーブルテレビで紹介した本を、「FM茶笛で紹介しました」と館内に掲示して置くのも良い方法と思われる。
- ・また、FMを聴けない方のために、ホームページでも同じ本を紹介したらいいと思います。

重点施策別評価表

3-4 自動音声応答システムによる情報提供の充 デジタルデバイド解消のため情報弱者への情報提供を積極的に行う

項目	単位	27年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
自動音声応答システム							3	
利用件数	件	7,700	6,519	85	やや悪い	継続、維持	3	3

★自己評価

○評価の理由

- ・一定の利用があったので目標は達成していないが4と評価したい。
- ・電話での操作はやりづらい部分もあるが、よく利用されている。
- ・6,500件を多いとするか、少ないとするか、判断は難しい。

○課題

- ・予約資料の確保確認に最も利用されている。予約資料確認をより使いやすくする必要がある。
- ・システムの使用方法が利用者、特に高齢者にわかりにくい。
- ・システムの使用に時間と費用がかかる。
- ・貸出期限の延長などでトラブルが起きることもあるので、少しずつインターネットや館内端末の利用に移行できるような施策ができればよいのかもしれない。
- ・夕刻に図書館に電話した結果、自動音声応答システムを知った方もいる。潜在的な需要がどの程度かは不明だが、認知度の向上が必要であろう。

○次年度への改善点

- ・現在多くの図書館で、自動音声応答システムは採用していない。しかしながら、入間市では継続的な利用があり、また予約確保の電話連絡を行なっていないため、その代替機能として、自動音声応答システムを継続する必要がある。
- ・使用しやすいシステムへの変更のためには何をどのように改良していく必要があるか検討を図る必要がある。

★外部評価

○評価の理由

- ・達成率が85%ということで、3～4の評価が妥当であろうが、職員に倣い3とする。

○課題

- ・特になし。

重点施策別評価表

3-5 インターネット接続端末の活用

インターネット接続端末に有料データベースを整備し、利用促進を図る。

項目	単位	27年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
インターネット接続端末							4	
利用件数	件	9,300	8,400	90	良い	継続、維持	4	4

★自己評価

○評価の理由

- ・一定の利用があり、目標近くまでは到達したので4と評価した。
- ・良く利用される(予約待ちが発生する)日と空いている日の差はあるものの、良く利用されている。
- ・件数だけなので、長時間利用者が多数いた場合は当然達成率が下がる。
- ・件数以外の、時間による評価基準も必要ではないだろうか。
- ・ヨミダスの認知度が非常に低い。

○課題

- ・インターネット接続端末は、特定利用者の利用が多い。
- ・特定の人が占有する機会が多くなってきている。
- ・ヨミダス歴史館の利用が進んでいない。
- ・本来の調査・研究目的での利用が少ない。
- ・端末の不調がしばしば見られる。ハードの問題か導入しているソフトの問題か、それともネットワークの問題かはっきりしない所もあるので、そういったことが原因で利用件数増加の妨げにならないよう注意したい。
- ・混雑時には、複数回利用している方への制限などが必要となる可能性がある。
- ・ヨミダス使用時、ログアウトではなくウィンドウを閉じる方が多い。
- ・ヨミダスの認知度を向上させる必要がある。

○次年度への改善点

- ・有料データベースは、現在ヨミダス1ライセンスのみである。
- ・さらなる有料データベース(官報電子版等)の導入が必要である。
- ・図書館からの情報提供サービスとしてのPRを積極的に行う。
- ・読売新聞データベースによる記事検索サービス(ヨミダス)の市民へのPRを積極的に行う。
- ・「ヨミダス」の利用促進のため、さらなる周知を図りたい。
- ・職員の側から、積極的にヨミダスを推奨していく。

★外部評価

○評価の理由

- ・達成率が90%であり4の評価とする。

○課題

- ・特になし。